自画自説 1979 年「アマルフィーの夜明け」F120 号、「プローチダ島大観」F100 号

「夕映え大地」F100 号

「故宮大観」F100 号

1977 年から１９７９年まで２年間北京に長期出張した。国交回復直後で文化大革命の余韻が残っている頃です。世界気象情報ネットワークの観点で中国大陸の気象情報を得るために特別に最新コンピュータを中国に入れることとなった。これに日立のコンピュータが決まった。

中国からハードウェア技術者１５名、ソフトウェア技術者１５名が日本へ勉強にやってきた。私はソフトウェア技術者１５名の技術指導担当でＩ年間教育指導をした。実際のソフトウェア開発は北京に帰国してから行うことでソフトウェア技術者の帰国に合わせて北京へ出張することとなった。その直前に唐山地震が発生し北京は厳戒態勢だった。外国人の技術者は鉄筋制のホテルしか宿泊出来ない規定で結局地震警報が解除するまでの７ヶ月間は北京飯店で生活することとなった。北京飯店の最上階から毎日故宮を眼下に眺めながら仕事をした。

当時高層ビルはなく北京飯店の１７階が飛び抜けてそびえ立っていた。長安街・天安門広場から故宮と素晴らしい眺めだった。当初は５名の技術者で国賓的な扱いだった。何処へ行くにも監視がついていた。自由はなく旅行に行くにも付き添いの中国人の方が多かった。日本から会社の幹部も視察と称してたくさん来られた。その都度私たちも宴会から観劇と招待された。１９７９年に友好条約が締結された。人民大会堂で２０００名の祝賀会が開かれたが私たち技術者は最前列でカメラの脚光を浴びた。